

TAKE
FREE

幸区・まち・発見

まちのおと情報誌

machi-note | 2023 春



Contents

ここどこ? [P2] / 幸区まちかどインタビュー [P3] / 幸道中膝栗毛 幸区のおもしろスポット [P4・P5]
まちあるきで歴史さんぽ [P6・P7] / 「まちのおと」ってなんだろう? [P8・P9] / 幸区のひとつ 高橋光代さん [P10]
まちのおと情報誌はわたしたちが作っています! [P11] / ここどこ? [P12]





撮影／木戸真理子 レポート／中村純子

ここどこ？

ラゾーナの裏をお散歩していて見つけたスポット

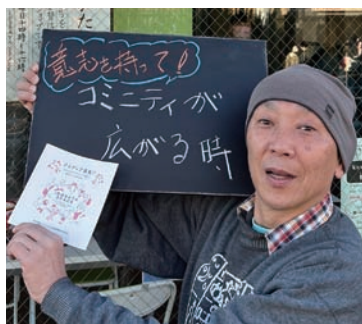
「こんなところに汽車？」と近づいたら古い消火栓発見！ 手前には、今の消火栓も…

おしゃれなラゾーナと歴史を感じる消火栓

この街をずっと守ってくれてる素敵な場所発見！！

幸区まちかどインタビュー

しあわせだなあと感じるとき



岳さん

みんなの居場所、つくってます!!@幸市民館 (IDOBATA SPACE)



市川 由美子さん

お客様にご機嫌になってもらいたいという思いのもと、ファッションと雑貨のセレクトショップ Green Leavesを営んでいます。



水田 理紗さん

「おてつたび」をきっかけにまちに貢献することに目覚めました。お休みの日などは積極的に地域の活動に参加していきたいです。



有山 節子さん

「小倉の駅舎陽だまり」のコーディネーターとして憩いの場をつくり、地域の方々を見守っています。



中島 守さん

幅広く学びの場が広がっていて、子どもたちの笑顔にボランティアさんたちも元気もらっています。(寺子屋東小倉事務局長)



亀岡 肇さん

まちあるき途中に立ち寄った北加瀬の老舗和菓子店さん。栗もなか、いちごもちは絶品です！(御菓子司 碓久屋2代目)



伊藤 公一さん

「まちあるき」に参加して地域活動をするようになりました。人と人が笑顔を作る、そんな地域で活躍している人を繋げたいです。



田中芳一さん 加代さん

季節の新鮮な青果はもちろん、おつけもの(自家製)が人気だそうです(“▽”) (古市場：八百三 田中商店)



大森達也さん 関口さゆりさん

厳しい風貌ながら心優しいブラッスリーほっぺのシェフ。店内はカエルがいっぱい。本牧どザは「かわさきAKINAI AWARD #かわさき推しメシ」で一般部門準グランプリになりました。



幸区の境目をまちあるきして
面白スポットを見つけました

幸道中膝栗毛

さいわいどうちゅうひざくりげ




IWAKAWA & TAKEUCHI



川崎ゴルフ練習場

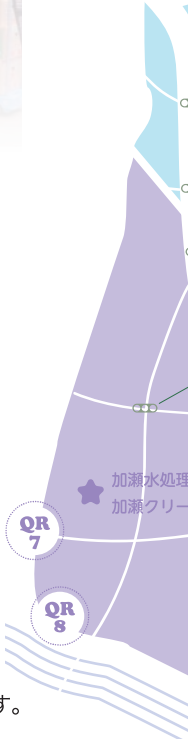
平日にも関わらず練習されている方がたくさんいましたよ～
この車はどうやってお仕事するんだろう？

幸区を5つのグループに分かれて、
二人一組でまちあるき。
じっくり探してみると、
普段は見過ごしてしまうような
面白いスポットが見つかりましたよ～

他に紹介したいスポットは、
地図上にQRマーク  をつけています。



←読み取って見てね。



AKAMATSU & MORIBE



幸区と中原区の境目

もしやこれが区境か！路面の色が違う！
左側が幸区で右側が中原区なのかも



MIZUTA & K.NAKAMURA



バク

標識を見つけました。
鶴見川流域がバクの
形だったとは…！
おもしろいですね。



KIDO & J.NAKAMURA



川崎と横浜の境目

右見て左見て
その間にある
この線が…市境？
こんなにひっそり…
大都市の境目があるのは、すごい！！

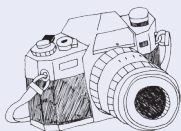


ITO & SHIMIZU



川崎デルタ

床をよく見ると、川崎の名所紹介が彫られたプレートがたくさんあります。全部見つけたいですね。



幸区ってなんで幸せが付いているの？

まちあるきで歴史さんぽ



幸区は川崎市の中で一番小さな区ですね。

春には梅と桜、初夏の夢見ヶ崎動物公園では紫陽花を楽しむことができ、

「夢見ヶ崎」という名前は室町時代の武将

太田道灌が見た夢にちなんで名づけられたそうです。

レポート／伊藤公一



その

1 幸区は何で「幸」なの？

幸区という名前がどうして生まれたのでしょうか。それは、明治17年(1884)に明治天皇が小向梅林(今の御幸公園一帯)に行幸(ぎょうこう)されたことを記念して、明治23年(1890)に小向の周辺数ヶ村の合併で御幸村と名づけられました。この「御幸村」の村名と、「幸多い」地域という願いから昭和47年(1972)の区制施行の際に「幸区」と名付けられたそうです。

その

2 江戸に運ばれた幸区の「梅」

明治天皇臨幸御観梅跡がある御幸公園一帯は、むかし多摩川の氾濫によって何度も洪水にみまわれていた土地だったそうです。そこで、多少の水が出ても収穫が見込める梅を江戸時代の始めの頃から農家は積極的に栽培していました。ここで作った梅は約200年にわたって江戸庶民の食卓にのぼり、小向村(後の御幸村の一部)の貴重な収入になったそうです。

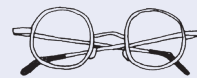


御幸公園の明治天皇行幸の碑

その

3 幸区の名付け親かも? 「成島柳北」

明治16年(1883)に随筆家の成島柳北という人が新聞に「小向村探梅ノ記」という記事を載せたところ、梅の名所として小向梅林の名は一躍東京に広まり、その評判を耳にした明治天皇が明治17年(1884)3月に観梅を楽しみました。成島柳北さんがいなかったら幸区という名前も無かったかもしれませんね。



その

4 江戸時代からタイムスリップ?

小向や古市場、鹿島田という幸区域の町名は、江戸から明治時代の村の名前が継承されています、当時の人が今でも地名を頼りに幸区を迷わず歩けるかもしれませんね。



また、明治天皇が見られた「小向梅林」にちなんで、幸区内の6つの小中学校では校章に梅の花がデザインされています。



その

5 日本ではじめての途中駅

幸区と言えば鉄道の聖地、JR東日本の川崎駅は川崎区駅前本町にある駅ですが、実は駅の西半分は幸区なんです！そして、明治5年(1872)6月5日に新橋、横浜に次いで3番目の鉄道駅として誕生した日本ではじめての途中駅、とても歴史のある駅なのです。

その

6 『まち?』『ちょう?』『とっ…とて!?!』

さて幸区の地図を見ると、不思議なことに鹿島田と小倉の東側に「〇〇町」と町が付く町名が集まっています。土地の名前でよく使われるこの「町」の読み方は「まち」と「ちょう」のふたつがあり、たとえば、千代田区神田の紺屋町はコンヤチョウですが、幸区の紺屋町はさてなんと読むのでしょうか？川崎市のホームページで調べてみました。

「まち」と読む町

- ・紺屋町
- ・遠藤町
- ・古川町
- ・戸手本町
- ・河原町
- ・小向西町

「ちょう」と読む町

- ・小向東芝町
- ・小向町
- ・神明町
- ・都町
- ・大宮町
- ・小向仲野町
- ・堀川町
- ・柳町
- ・幸町
- ・中幸町

いかがでしたか？同じ「町」でも呼び方が違うのですね。皆さんが普段に呼んでいる名前と違うものもありましたか？

もうひとつ気になったのが戸手、トデと濁らないのが正解なのです、戸手本町(トテホンマチ)何だか軽快な読み方ですね。



赤穂浪士ゆかりのお寺があったり陶器の国宝の第一号が出土したり、市内でもっとも狭い箇所があったり小倉にはむかしトマトケチャップ工場があったり、加瀬山は削られる前は南加瀬交番あたりまで広がったり、歴史と興味いっぱいの幸区です。まちあるきで歴史さんぽ、新しい発見があると思いますよ。



「まちのおと」って なんだろう？

「まちのおと」とは...

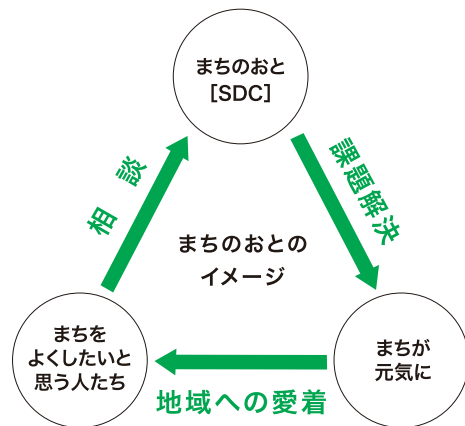
まちのおと(さいわいソーシャルデザインセンター)とは、鹿島田駅と新川崎駅の間にあるコミュニティカフェ「新川崎タウンカフェ」の一角にあり、地域活動を行う人や団体・企業・資源・活動をつなぎ、地域交流の促進や地域課題の解決に向けて支援する場です。



地域活動のこと、 「まちのおと」にお話してください！

まちのおとコーディネーター 岩川 舞

地域活動に参加してみたい、活動の始め方がわからないなど、どこに聞いてよいかわからない方に活動の紹介やアドバイスをする相談窓口があります。私たちコーディネーターは、行政や地域団体との連携など、地域活動の応援をしています。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。



お問合せ/まちのおと(さいわいソーシャルデザインセンター)
川崎市幸区鹿島田1-1-5パークタワー新川崎102
新川崎タウンカフェ内
TEL: 044-555-0233 (担当: 岩川、中村)



幸区まちづくり応援情報サイトQRコード
まちのおとポータル
「まちポ」はこちら



まちのおとで「していること」や「できること」

知る

幸区のことをwebやSNSで発信。情報コーナーにはチラシがたくさん！

学ぶ

幸区を学ぶ機会を設けます。どなたでも参加可能です！

相談する

地域活動や団体の立ち上げ、相談アドバイスやサポートをします！

つながる

交流会などの様々な機会を設けて地域活動に携わる方をつなぎます。

話し合う

「困った」や「やってみたい」を意見交換し、より良いまちづくりへ。

まちのおとで取り組んでいる事業を一部ご紹介します！

地域の方どなたでも参加いただけるイベントも開催しています！ぜひ一度、お気軽に足を運んでみてください！



地域交流会

全6回、テーマ別に、まちの資源を可視化するためのマップづくりを行いました。マップづくりとまち歩きを通して、地域の方々が交流し、つながりの場をつくることができました。



個別相談・アドバイス

地域活動を始めたい方などに、個別相談やアドバイスをを行っています。

例) 地域でボランティア活動を始めたいと相談したところ、団体とつながることができた。



マンガ/まりもり

まちづくり応援フォーラム

区内で活動する8団体がプレゼンし、新たなまちの資源として紹介。プレゼンを聞いた参加者が、各団体への応援メッセージを書いて全体で共有しました。参加者と団体とのつながりをつくることができました。





幸区の
ひと

ひと・まち・コミュニティを つなぐ架け橋として

医療法人啓和会 小規模多機能ホーム小倉
生活支援コーディネーター
高橋光代さん

1人暮らしの人に「もしも」のことがあった時に、誰につなげたらいいのか？親戚の連絡先や、自治体の体制は？それをあらかじめ準備することが、安心につながる。高橋さん自身、毎日時間を決めて、一人暮らしの知人の安否確認をしている。任意でできる、助け合いの一つだ。

幸区内の小規模多機能ホームに、2021年4月赴任。長年ケアマネジャーとして、ヘルパーさんやデイサービス等の事業所と利用者さんをつないできた。その経験を生かして、ここでは生活支援コーディネーターとして、地域の中で、個別支援と地域支援を有機的につなぎ合わせながら人と場、さらには人と生活と地域をつなぐ役割を担っている。

施設の駐車場は、第二水曜日にパン屋さん、第四水曜日に八百屋さんの移動販売に開放している。地域の人々のつながりを結ぶ中、課題と感じているのが、情報の発信と受信の場だ。日々、様々な情報が行き交うが、果たして必要な方へ届いているのだろうか？ならば、まず自分が発信しよう、と季節の野菜の豆知識や、旬の野菜のレシピを載せた新聞を作り、移動販売のお客へ配布をはじめた。野菜の豆知識は、八百屋さんの直伝、レシピやお料理の写真は、忙しい合間を縫って自ら手掛ける。「わたしにはこれが

精一杯」と照れ笑いするけれど、評判は上々だ。活躍の場は、介護施設にとどまらない。町内会や商店会と一緒にあって、地域活性化に奔走中。毎月第1日曜日、小倉神社境内で開催され、地元の方で賑わう「ふれあい朝市」では、町内会とのコラボで「とりカエル・これイルカ」というバザーを始めた。寄付品を募り、必要な人を買ってもらおう。ここまでは良くある話だ。大切なのは、善意と地域経済の循環を生むこと。収益をお金で寄付するのではなく、地域の商店で生活用品を購入して、それを社会福祉協議会へ寄付し、その寄付品が必要な方の手に渡る。地元商店街を活性化したい、という高橋さんの思いがアイデアを生んだ。

「つながりも、活動を応援してくれる応援団も、人が多ければ多いほどいいけど、そこに無理があると、続けるのが難しくなる。だから、共感してくれて、助けたいという時に、関わってくれたらそれが一番」。

高橋さんがつなぐ人の輪、地域の輪。笑顔と共感の輪が広がり、助け合いのご縁がつながっていく。輪の入口では、高橋さんが温かな笑顔で待っている。いつでも開いている扉は、入るのも出るのも自由。あたらしいコミュニティ作りが芽吹いていくのを、高橋さんの活動に見た気がした。

撮影／木戸真理子 レポート／赤松宏美

スタッフのつづやき



まちのおと情報誌は

わたしたちが
作っています!

バックナンバー
はこちら



誰もがありのまま
に生きられる世界
を作りたい!
そんな野望をまち
のおとを聞きながら。
いさき

故郷の千葉市から
川崎市幸区へ引越して、
2023年が丸20年です。
節目の年である今年、
好きなことも学びながら
いきます。赤松宏美🐰

はじめてのことだらけで
ドキドキワクワクでした👏
ステキなみなさまの
おかげでとても愉快な
経験ができました
ありがとうございました!
なほこ

みなさんで
作り上げるのは
楽しいです。
又、次もほにか
企画ます!! 😊

初参加です。あたたかい
編集メンバーの皆さんと
一緒に会議やまちを
歩くことが出来、新たな
発見がありました。
楽しかったです!! みずた🐼

Sight Wine Don't You
He The Clean Get
Q now A many flower ray ten,
to chew QK early master girl,
tang know she Oh sun porn
turbine top now read master.
morrybay@DAYS

今回は過去一忙しく
他のXハックの方に迷惑を
かけてしまいました🙇本誌に
すみません。皆で作りました
「まちのおと」たくさんの方に読
んでもらいたいです。マコ

手にとったくれた人
にワクワクしてもら
えるといいなあと思
いながら取材や編集
に参りました。
アンテナショップ 晴空

久しぶりにニリヤレで
集まって、紙をばらばら
ミーティングも取らず。
とても楽しかったです!! 🐼
しほは
笑子👧
目も開かれました。
おかげです!!
F.L.H.H



撮影・レポート／中村圭

ここどこ？

川崎市に流れる

川と川が出合う場所

さいわいの橋から眺める夕焼け

雲の後ろには

富士山がかくれんぼ



まちのおと情報誌 川崎市幸区鹿島田1-1-5 パークタワー新川崎102

本誌はまちのおと(さいわいソーシャルデザインセンター)の事業として発行しています

まちのおと情報誌 発行日:2023年3月 発行:株式会社イータウン 発行責任者 齋藤 保
TEL/FAX:044-555-0233 新川崎タウンカフェ内 <https://machinote.net/sdc/>

